

革命の旗

共産主義者同盟(革命の旗)
中央機関紙

創刊号
1979.8.10

定価 200円

発行人 北沢晋
発行所 赤流社
連絡先 東京都世田谷区
千歳郵便局
私書箱4号
年間2500円(開封・送料共)
3000円(密封・送料共)

共産同(革命の旗)結成万歳



全国の共産主義者。革命的労働者。農民。学生諸君！
「革命の旗」を高々と掲げ、マルクス・レーニン主義の単一の全国党創建に向け、新たな長征へ出発せよ！

共産主義者同盟(革命の旗)第一回大会

結成宣言

全国の共産主義者諸君！革命的労働者諸君！革命的農民・学生諸君！
我々は、心からの喜びと革命的決意・情熱をもって共産主義者同盟(革命の旗)が結成されたことを報告する。

一九七九年七月×日、共産主義者同盟(革命の旗)第一回大会は、綱領草案・規約・政治報告を採択し、旧共産主義者同盟遊撃派と旧共産主義者同盟マルクス・レーニン主義派との統合を実現し、共産主義者同盟(革命の旗)を戦取した。

共産主義者同盟(革命の旗)は、ブントの「現代修正主義に転落した日本共産党から訣別し、トロツキズムの革共同に反対してきた」(綱領草案)革命的伝統を継承し、日本プロレタリア階級のマルクス・レーニン主義党を創建し、プロレタリア階級の世界軍の一部隊として、全ての国々の共産主義者と共に、世界共産主義革命の勝利を目指して闘う。その途上にあつて、日本革命、つまり日本帝国主義打倒・米帝国主義追放・プロレタリア階級独裁・社会主義革命の実行を当面の任務とする。(同)

共産主義者同盟(革命の旗)は、ブントの急進民主主義を清算し、マルクス・レーニン主義を獲得し、(分派闘争の時代から統合へ)と転換するブントの新たな時代の中核・先鋒隊である。

我々は、この闘い取られた地歩を打ち固め、マルクス・レーニン主義の第三次ブントの結成へと前進していかなばならない。
しかも我々の党建設の闘いは、この段階に留まるものではない。「修正主義・現代修正主義と仮借なく闘い、日本プロレタリア階級を組織し、支配階級へ高めあげるマルクス・レーニン主義党を創建しなければならぬ」(綱領草案)

この壮大・不可欠な任務は、今まさに、新たな地平へと押し上げられた。
* * * * *
今日、新たな戦争と革命の時代が始まりつ

つある。嵐の時代の序鐘は、打ちならされていく。こうした中で日本帝国主義の体制的危機は始まり、激化している。帝国主義戦争と社会主義革命の接近という情勢の中で、プロレタリア階級は、様々な細流・水路を通じて反抗を強め、資本の専制支配との対決を強め、拡大している。

こうした闘いの一切の現われを我々は、マルクス・レーニン主義党の創建に結びつけ、プロレタリア階級の指導を通じ、貧農半プロレタリアと同盟し、中農・都市小ブルジョア階級をひきつけて社会主義統一戦線を構成し、「暴力革命で日本帝国主義、つまりブルジョア階級独裁を打倒すると同時に、米帝国主義を追放し、プロレタリア階級独裁を樹立し、資本主義の生産関係を社会主義的生産関係に」とつてかえる(綱領草案)一大戦へと進撃していかなばならない。

共産主義者同盟(革命の旗)綱領草案は、ブント総括を基礎とし、マルクス・レーニン主義の原則を復権し、反スタ・トロツキズムを批判し、反帝・反社帝の毛沢東思想を支持し、アジアの社会主義国、民族解放闘争と結合し、日帝打倒・米帝追放・プロ独・社会主義革命の日本革命と反ソ反米反霸権の国際人民闘争を結びつけて推進することを簡潔に、しかも力強く示している。我々は、この綱領草案を日本共産主義運動の再編・統一に向け、た公然たる戦闘旗として提起する。

五九年のブント結成以来、特に六九年七・六事件以来のブントの苦難の分派時代、その困難な条件の中で、なおブントの革命的伝統を守らんとし、志なかに倒れていった多くの同志がいた。彼らこそ旧共産主義者同盟マルクス・レーニン主義派と旧共産主義者同盟遊撃派の統合の真の組織者・原動力であった。

全国の同志諸君！闘い取った地歩を固めよ！絶対不屈の確信を呼びおこせ！この地歩は、全国の各地で異なった諸条件の下で活動している全ての共産主義者、革命的労働者、革命的農民・学生諸君の共通の地歩となるべきものであり、又ならねばならない。たとえかつて異なった地点から出発し、異なった歩みを進んできたとしても、わが綱領草案と固く結びつくことにより、共に前進する地歩をつかみとることができよう。

我々の事業は、決して革命的気分をもったインテリゲンチヤの小群を統合することにあるのではない。我々の事業は、今日革命的勃興を示しつつあるプロレタリア運動の全ての先進闘士、全国の先進闘士を、厳格な原則に基づいて単一の党へと統合することである。我が綱領草案は、原則的厳格な統合のための力強い基盤をつくり出し、その旗印とならねばならない。

全国の共産主義者諸君、革命的労働者諸君、革命的農民・学生諸君！
今こそ真の長征に出発せよ！七十年代の一時期にわたる苦闘によって準備され、戦取されたこの統合を礎とし、「革命の旗」を掲げ、マルクス・レーニン主義の単一の全国的な革命党を創建する新たな長征に出発せよ！史上三度の戦争と革命の時代の様相がますます公然たるものとなり、社会主義革命に向けた革命情勢がぐつきりと刻印されている現在、アジアの社会主義国、民族解放闘争と結合して、日帝打倒・米帝追放・プロ独・社会主義革命を実行するマルクス・レーニン主義の単一の全国的な革命を速かに、立派に無駄なく創建し抜くことは、最も緊要の任務であり、この真の長征を共通の事業としなければならぬ。

この事業において、今後我々に襲いかかってくるものがどれほど苛酷であろうとも、最後の勝利は我々のものである。
全国の共産主義者諸君！革命的労働者諸君！革命的農民・学生諸君！
共産主義者同盟(革命の旗)に結集せよ！
共産主義者同盟(革命の旗) 結成万歳！
日帝打倒・米帝追放、プロ独・社会主義革命万歳！

マルクス・レーニン主義の全国単一党創建の最良の戦士へ!

綱領草案・規約を発表するにあたって

すべての同志友人諸君!

われわれは、分派闘争から統一の時代への転換を戦取した。旧共産主義者同盟マルクス・レーニン主義派と遊撃派は、統一を指した綱領草案を正しく推し進め、統一のための六条件をめぐって討議を煮詰めあげ、完全な一致を勝ちとった。ここに、相互の分派活動を終焉し、共産主義者同盟(革命の旗)の下に、固く団結し、統一大会にむかひに第一回大会を開催し、綱領草案・規約・政治報告を採択し、圧倒的成功を納めた。すべての同志友人諸君!

プロレタリア階級の前進であるマルクス・レーニン主義の創建に向けた、ささやかではあるが偉大な第一歩を戦取したのである。この成果の一切を打ち固め、

分派から統合への画期が闘い取られた!

かつて六九年以来の、ブントの分裂に続く分派闘争の否定的現状を突破せんとする闘いがさまざまに試みられ繰り返され、いくつかの分派の統合という形で結実した。しかしそれらは、

ものとはならず、統合の基礎を形成することはできなかった。すなわち、今まで統合に向けての気運は、いくたびか醸成されつつも、それを単なる気運から力に変えることはできずいたのである。

ブント総括の核心問題と今日の焦眉の課題

われわれは、かつてのブント総括上の論争を、国家と革命の問題から、戦争と革命の問題、更には戦術・組織の問題にまでおしあげ、統一のための六条件を明らかにし、統一のための基礎を提起することによって広々とした論争の舞台を形成した。それはかつて試みられた統合の枠組の狭さと決定的に異なつたものであり、統一のための闘いの新たな画期をなしたものであった。この六条件を打ち出して統一のための論争を牽引してきた旧派は、ブント総括を基礎に、それを急進民主主義、反スター・トロツキズムの克服、止揚として定式化し、国家と革命の問題にまで歩を進め、急進民主主義の資本主義批判をマルクス・レーニン主義の資本主義批判にとつてかえ、同時に史上三度目の戦争と革命時代の国際国内情勢の分析において完全な一致を打ち

マルクス・レーニン主義分派の統合を更におし進めよ!

今日の国際情勢、とりわけベトナム・カンボジア問題をめぐる大流動は、国内情勢に反映し、党派の分化・再編が激化

体化した。われわれは、マルクス・レーニン主義の見地を確立し、第三次ブント結成の中核を戦取することによってプロレタリア単一党創建の道を突き進まんとしている。大会政治報告は、わが党の任務を次のように明らかにしている。「今日の時代特徴は、日本プロレタリア階級にとつて帝国主義戦争に対する態度と、プロレタリア階級をめぐるとの問題がより現実的なものとして一層鋭く問われるにいたつていふことを示している。しかもこのことは革命党にとつては、それが革命の現実性の深まり、すなわち社会主義革命を急速に実践的課題として引きよせるものであるが故に、日本革命の思想・政治路線をめぐり一層とぎすまされた論争の煮つき、党派闘争の煮つきを不可避にしている。そして「今日の諸勢力の分派と再編は何に最も象徴的に示されているかというならば、それは帝国主義戦争と社会主義革命をめぐるとの問題であり、国家とプロレタリア階級に対する政治態度をめぐるとの問題である」と基本的観点を鮮明に打ち出している。

綱領草案を日本プロレタリア階級の戦闘の旗印とせよ!

綱領草案は、第一章で急進民主主義の資本主義批判をマルクス・レーニン主義の資本主義批判にとつてかえ、ブルジョア階級とプロレタリア階級の非和解性、階級闘争の問題、プロレタリア階級と革命の関係を、そして国家と革命の問題、とりわけ暴力革命でブルジョア階級独裁を打ちおして、プロレタリア階級独裁を樹立して、社会主義階級革命を推進し進めることの重要性を示している。第二章、帝国主義と世界プロレタリア共産主義革命の時代、戦争と革命の時代の特徴を示し、同時に修正主義・現代修正主義の批判を明らかにし、現在のソ米・超大国の戦争の要素の増大に対する当面の国際人民闘争の主力軍、大後方、三つの革命的勢力を示し、世界プロレタリア共産主義革命の勝利の方向をさし示している。第三章は、日本革命の政治路線の確定についてである。日本の社会は高度に発達した資本主義で、植民地支配を行なつてきた帝国主義である。そして日本の国家権力は、ブルジョア階級が掌握するブルジョア階級独裁であり、それは米帝による

綱領草案・規約の下、建党闘争の最良の戦士として前進せよ!

すべての同志友人諸君! われわれの統合は、分派から統合へ、単なるスローガンから現実の力に変えた。階級闘争の基調は、マルクス・レーニン主義分派の、そしてさまざまに共産主義グループの論議を通じて統合へと変わった。われわれは、この闘いを領導する最良の戦士として自己を高めあげた



共産主義者同盟(革命の旗)

綱領草案

(1) 一九一七年のロシア十月革命によって始まった世界プロレタリア共産主義革命は、その後中国革命、インドシナ革命を始めとした共産党の指導する被抑圧民族の革命闘争が中心となって発展し、二十世紀の中期から今日にいたる基調をかたちづつてい

この時代にあつてわれわれ共産主義者同盟は、現代修正主義に転落した日本共産党から訣別し、トロツキズムの革共同に反対してきた。われわれは、日本プロレタリア階級のマルクス・レーニン主義を創建し、プロレタリア階級の世界軍の一部隊として、すべての国

々の共産主義者と共世界共産主義革命の勝利をめざして闘う。その途上にあつて、日本革命、つまり日本帝国主義打倒・米帝国主義追放・プロレタリア階級独裁・社会主義革命の実行を当面の任務とする。

分の労働力を販売することを余儀なくされている。すなわち、資本家の雇い人となつて自分の労働で、社会の上層階級の所得をつくりだすことを余儀なくされている。

(6) プロレタリア階級の内部におけるこのような事態と世界市場におけるそれらの諸国相互のたえず激化していく競争とは、たえず増大する数量で生産される商品の販売をますます困難にする。過剰生産は、多かれ少なかれ鋭い産業恐慌となつて現われ、恐慌のあとには多かれ少なかれ長びく産業沈滞期が続くが、この過剰生産は、ブルジョア社会において生産力が発展していくことの不可避の結果である。恐慌と産業沈滞期は、それはそれで小生産者をさらにいっそう零落させ、資本に対する賃労働者の従属をさらにいっそう深め、労働者階級の状態の相対的悪化に、ときにはまた絶対的悪化にも、いっそう急速に導いていく。

(7) こうして労働生産性の増大と社会的富の増加とを意味する技術の改善が、ブルジョア社会では、社会的不平等の増大、有産者と無産者の隔りの拡大、労働大衆のますます広範な層にわたる生活の不確かさと失業とさまざまな種類の困窮との増大の条件となる。

よ集結せよ

(2) 前進しつつあるプロレタリア共産主義革命は、資本主義の発展が不可避に導いたものであり、ロシア共産党の綱領は、この資本主義とブルジョア社会の本質、それが共産主義社会に発展する不可避性について次の

ように正しく特徴づけた。

重要な、いちじるしい部分が、少数の人間からなる階級に属しているのに、他方住民の圧倒的多数は、プロレタリアと半プロレタリアからなつており、彼らはその経済状態にせまられて、常時あるいは定期的に自

ます拡大する。

(5) この同じ技術上の進歩は、そのうえ、商品生産および流通の過程に婦人労働と児童労働をますます大規模

三面につづく

三面よりつづく

国主義と従属的に同盟している。米帝国主義は日本帝國主義を自下の同盟者として、アジアの植民地支配と民族解放闘争、社会主義国およびソ連社会主義国への脅威、突撃隊としての他方では、日本帝國主義と米帝國主義の間に勢力圏をめぐる対立が存在し、米帝國主義の相対的下降と日本帝國主義の相対的上昇によって対立は激化している。しかし依然として米帝國主義は一流帝國主義であり、日本帝國主義は二流帝國主義である。だから勢力圏の分割は、日米安保体制のなかで進んでいる。

(30) 以上のことから当面する日本革命の対象、つまり敵は、日本帝國主義つまり日本のブルジョア階級と、米帝國主義である。革命の任務は、暴力革命で日本帝國主義、つまりブルジョア階級独裁を打倒すると同時に、米帝國主義を打倒し、プロレタリア階級独裁を樹立し、資本主義的生産関係を社会主義的生産関係へと変えていくことである。従って、当面する日本革命の性質は、米帝國主義を含む社会主義革命である。

(31) 当面する日本革命の原動力は、プロレタリア階級と貧農半プロレタリアである。高度に発達した日本資本主義は、生産の社会化を高度に実現し、社会主義革命の物質的基礎を準備すると同時に、農民と都市小ブルジョア階級を分散させ、巨大なプロレタリア階級を形成した。生産の社会化を代表するプロレタリア階級が社会主義革命の原動力である。また貧農半プロレタリアは農民の大多数を占め、しかも量的に増大しており、ブルジョア階級に直接搾取されており、社会主義革命において原動力になることができ、プロレタリア階級の同盟軍となる。中農半ブルジョアと都市小ブルジョア階級は、小商品生産者である。しかし同時にブルジョア階級に間接に搾取されており、一部が資本家の上昇するが、大部分は没落してプロレタリア化する運命にある。それ故、社会主義革命の原動力ではないが、敵でもない。だからプロレタリア階級は中農と都市小ブルジョア階級を引きつけねばならない。こうして、当面する日本革命においてわが同盟は、プロレタリア階級の指導を通じて、貧農半プロレタリアと同盟し、中農と都市小ブルジョア階級を引きつけて、社会主義統一戦線を結成し、暴力革命で日本帝國主義を打倒し、米帝國主義を打倒し、プロレタリア階級独裁を樹立し、社会主義革命を行っていくなければならない。

(32) 日本革命の前途は、共産主義の最高段階であり、これは世界プロレタリア階級の共通の終局目標であり、世界プロレタリア共産主義革命の勝利によってのみ達成される。だから日本のプロレタリア階級は、日本で社会主義を建設した後も、プロレタリア階級独裁を堅持し、社会主義を継続し、世界革命の根拠地を建設していくなければならない。

(33) 今日、アジアの社会主義国を大後方とした民族解放闘争が、インドシナで米帝國主義に勝利し、朝鮮を次の最前線としてつづける。またアジアでソ連社会主義国主義が覇権争奪を強め、米帝國主義・日本帝國主義との勢力圏をめぐる再分割戦を激化させている。これに対

して日本帝國主義は、米帝國主義と同盟し、朴政権を先手として朝鮮侵略革命を強化し、朝鮮南部人民の反米反日朴打倒の民族民主革命に対する反革命を強め、朝鮮民主主義人民共和国と朝鮮人民の自主的平和統一闘争への敵対を強めていると同時に、ソ連社会主義国主義への対決を強めている。日本帝國主義は、朝鮮侵略革命のため、またプロレタリア階級の反抗の増大、社会主義革命に対する反革命のため、天皇制を前向きに、官僚機構、軍隊、警察を一層強大化し、両者を結合させ、差別を強め、ブルジョア階級独裁を反動化しつつある。同時に、資本主義の高度成長が破綻し、恐慌が進行し、長期に不況が続くなかで国家独占資本主義を強化し、プロレタリア階級、勤労人民への搾取、収奪、抑圧、差別を一層強めている。これに反対してプロレタリア階級、勤労人民は、朝鮮侵略革命と戦争に反対する闘争、反動化に反対する闘争、差別に反対する闘争、搾取、収奪、抑圧に反対する闘争などを激化させ、発展させている。総じて日本帝國主義の体制的危機は深まり、社会主義革命の増大に帝國的に始まりつつある。加えて、米帝國主義とソ連社会主義国主義のアジアでの覇権争奪と戦争の増大によって、一層促進されているのである。それ故現在の情勢は、社会主義革命の表現のために、政治権力を獲得する準備をプロレタリア階級に全面的に整えさせるという任務を客観的にのぼらせている。

と仮借なく闘い、日本プロレタリア階級を組織し、支配階級へ高めあげるマルクス・レーニン主義を創建しなければならぬ。現在、日本の労働運動を支配しているのは、労働貴族を基礎とする修正主義、現代修正主義である。日本帝國主義の超過利潤の一部で買収された彼らは、今日では社会主義としてブルジョア階級独裁の社会的支柱をなし、その反動化に忠告をなし、帝國主義戦争に労働者階級を屈服させ、あるいは動員しようとしてい。こうした政治勢力・潮流と闘わなければならない。とくにプロレタリア階級をマルクス・レーニン主義に組織するためには、修正主義、現代修正主義の社会党、日本共産党との闘争が重要である。社会党は社会民主主義のいくつかの傾向の連合体であるが、中心は社会主義協会である。社会主義協会は、暴力革命を放棄した「平和革命」の議会主義であり、「社会主義革命」プロレタリア階級独裁の名で、実は社会主義革命、プロレタリア階級独裁を放棄し、資本主義とブルジョア階級独裁に対する民主主義的改良を追求する改良主義である。共産党は現代修正主義に支配されている。現代修正主義は、日米安保体制下の日本を従属国として捉え、日本の独占資本主義に対する革命を民主主義革命として捉え、結局日本帝國主義に対する社会主義革命を放棄する誤りから発生した。こうして現代修正主義の共産党は暴力革命を放棄した「平和革命」の議会主義であり、「民主主義革命から社会主義

革命の二段階革命」の名で、実は社会主義革命、プロレタリア階級独裁を放棄して、ブルジョア階級独裁と資本主義に対する民主主義的改良を要求する改良主義である。共産党と社会主義協会は、アジアの社会主義国と民族解放闘争、特に社会主義国と朝鮮人民の反日闘争に敵対して日本帝國主義と結合しており、プロレタリア階級を小ブルジョア階級に追いつかせ、ブルジョア階級に屈服させており、ソ連社会主義と結合した社会主義潮流である。

(一) 一般政治の分野で
(イ) 党は、日本帝國主義、つまりブルジョア階級独裁の国家権力である自衛隊、警察、官僚機構などを解体し、プロレタリア階級と勤労人民の武装を実現し、プロレタリア階級独裁の新しい国家権力、赤軍、革命政府などを樹立するために闘う。天皇制を廃止し、共和制を実現するために闘う。
(ロ) 党は、国内の沖縄人、アイヌなどの少数民族族に対する日本帝國主義の民族的抑圧に反対して闘い、これらの民族の自決権、つまり国

家的に分離する権利を承認し、国家を構成するすべての民族の完全な同権を実現するために闘う。
(二) 対外関係の分野で
(イ) 党は、米帝國主義の追放のために在日米軍の撤退、在日米軍資産の没収、安保条約およびすべての関連条約、秘密協定の破棄のために闘う。
(ロ) 党は、日本帝國主義の植民地支配の廃棄のために、日韓条約の破棄、在朝鮮南部の日本帝國主義の資産の無条件の放棄、朝鮮民主主義人民共和国の承認のために闘い、植民地被抑圧民族の自決権を承認する。米帝國主義と日本帝國主義の朴政権を先手とした朝鮮侵略革命に反対し、朝鮮人民の自主的平和統一闘争、朝鮮南部人民の反米反日朴打倒の民族民主革命、在日朝鮮人の民族的権利のための闘争を支持し闘う。
(ハ) 党は、ソ・米・天超大国の覇権主義に反対し、社会主義国と共に植民地・従属国の民族解放闘争を支持して闘う。
(ニ) 経済の分野で
(イ) 党は、ブルジョア階級が私有し独占する生産手段、および流通手段を収奪、没収し、プロレタリア階級独裁の下で社会主義の国家所有とするために闘う。そして、銀行、および

規

約

第一章 同盟員

第1条 同盟の綱領と規約を承認し、同盟の一定の組織で活動するものは同盟員である。
第2条 同盟員は同盟の機密を保持し、同盟費を納入し、決定に従い、所属する同盟組織に全活動を報告する義務を負う。
第3条 同盟員はその意見を原文のまま、中央委員会または大会に伝達する権利を有する。
第4条 同盟への加盟を決定した者は、二名の同盟員の推薦に基づき、当該同盟組織の三分の二以上による決議と、中央委員会の承認を得て、同盟員となる。
第5条 同盟細胞は同盟員候補の加入を決定できる。加入方法は加盟に準じ、上級機関の承認を得て、中央委員会に報告しなければならない。
第6条 同盟員候補は、同盟員とともに活動し、責任を負う。候補の期間は六ヶ月とし、中央委員会の承認を得て、同盟員となる。

第二章 組織

第6条 獄中同盟員は同盟員としての資格は継続するが、権利と義務の一部は凍結される。
第7条 一定の条件の下でこれを承認する。
第8条 大会は同盟の最高機関である。
第9条 大会は中央委員、中央委員候補、地方委員会および中央委員会により設置された同盟機関の代表員によって構成される。代表員選出の比率は中央委員会がこれを定める。
第10条 大会は中央委員会を選出し、大会から大会までの間、大会決定の執行と同盟活動の指導に中央委

第三章 財政

第11条 中央委員会は議長、副議長および政治局員を選出し、中央委員会から中央委員会までの間、同盟活動の恒常的指導にあたる。
第12条 中央委員会は中央委員候補を任命することができ、中央委員候補は議決権をもたない。
第13条 中央委員会は、一定の地方もしくは一定の専門機能に関する任務を遂行するための地方組織・専門組織の機関を設置し、委任することができる。地方委員会は同盟細胞を組織するとともに、必要に応じて地区委員会をおくことができる。
第14条 同盟の会議は全体の三分の二以上の出席をもって成立し、特に規定のある場合を除いて、出席者の過半数の賛否で議決される。

第四章 規律

第15条 綱領から逸脱し、規約に違反するものは、権利停止を含む最高除名に至る処分を受ける。
第16条 処分の決定は当該同盟組織の三分の二以上の票数を必要とし、中央委員会の承認を得なければならない。
第17条 処分を受けた同盟員は再審査を要求することができる。また除名された同盟員の再加盟は中央委員会がこれを決定する。

第五章 付則

第17条 規約に定められていない問題については、中央委員会が規約の精神のつとりに従って、解決する。

「革命の旗」(および赤流社発行出版物)取扱店
札幌・アテネ書房、ひらひら、札幌ルビコン、札幌大生協、小樽・小樽商大生協、本荘・北陽堂。仙台・萩書房、八重州書房。浦和・荒井書店。
東京・ウニタ、模索舎、四谷文鳥堂、文献堂、寅書房、コマバ書店、幻游舎、明大生協(本校・和泉・生田)、吉祥寺ウニタ。横浜・横浜ルビコン、
名古屋・名古屋ウニタ。京都・セイレイ社。
大阪・大阪ウニタ、曾根崎書店、大阪市大生協。吹田・関西大生協。神戸・神戸大生協。
広島・広島ウニタ、福岡・九大生協(教養)。沖縄浦添・沖縄舎
日帝打倒・米帝追放・プロ独・社会主義をめざす
「革命の旗」を読もう!
年間定期購読 2500円 (密封) 3000円
共産主義者同盟(革命の旗)結成に伴い、旧遊撃社と旧三月舎を統合し、新たに赤流社を設立いたしました。旧両社の出版物等は今後、赤流社の取り扱いいたします。
(連絡先) 世田谷千歳郵便局私書箱4号

赤軍派が起した七・六事件から一〇年が経過した今日、我々は遊撃派とML派の統合を実現しつつある。この統合は第一歩であるが、しかし決定的な第一歩である。必ずプロントの急進民主主義を清算し、マルクス・レーニン主義の第三次プロントを結成し、必ず修正主義の「共産党」に取って代り、マルクス・レーニン主義の共産党を建設し、アジアの社会主義国、民族解放闘争と結合して日本革命

統合の歴史的な第一歩と、

七・六事件の歴史的教訓

七・六事件は第二次プロントにおける路線闘争が急進民主主義のテロリズムと経済主義を両極とする諸傾向への分裂として進行する発端となり、連合赤軍事件がその頂点となったのである。同時に、連合赤軍事件は路線闘争が破産した急進民主主義から分裂・転換してマルクス・レーニン主義が形成される段階に移行する発端となり、それは現在も進行している。だが、現在は、また同時に、いくつかのマルクス・レーニン主義派が統合する新しい段階が始まりつつある。

「統合するまえに、また統合するためには、まずきつぱりと明確に分界線を画することが必要である」(「イスクラ編集局の声明」) が、分界線は急進民主主義の清算、マルクス・レーニン主義の獲得として引かれたのである。「革命的理論なしには革命的運動もありえない」(同)が、マルクス・レーニン主義の革命理論は、「ロシアはただ一つ正しい革命理論であるマルクス主義を未曽有の苦難と犠牲、比類ない革命的英雄精神、及び信じられないほどの精力とひたむきな探求、学習、実践による試練、失望、点検、ヨーロッパの経験との比較の半世紀の歴史によって、真に苦しみぬいてたまたかいたた「レーニン」共産主義の「左」翼小児病」というのは事情が異なるが、急進民主主義を清算する路線闘争を必死に闘い抜くことによって獲得されたのである。連合赤軍において殺された一二名を継承し、塩見一派と激しい路線闘争を闘って成長してきた我々は勿論、プロント系のマルクス・レーニン主義派は全て、組織の存亡をかけた路線闘争で路線闘争を実現して形成されてきたのである。今後もそうであろう。

七・六事件は第二次プロントにおける路線闘争が急進民主主義のテロリズムと経済主義を両極とする諸傾向への分裂として進行する発端となり、連合赤軍事件がその頂点となったのである。同時に、連合赤軍事件は路線闘争が破産した急進民主主義から分裂・転換してマルクス・レーニン主義が形成される段階に移行する発端となり、それは現在も進行している。だが、現在は、また同時に、いくつかのマルクス・レーニン主義派が統合する新しい段階が始まりつつある。

七・六事件を総括し、自己批判しておくことが必要である。

七・六事件の基礎にあっては路線闘争を総括しておかなければならない。六九年四・二八闘争が全学連、反戦青年委員会のベトナム反戦闘争、日帝の侵略反革命の政策に反対する闘争と日帝の高度成長の下で大学が資本に従属、奉仕してきたことを告発する全共闘運動の結合で、佐藤自民党政権打倒の實力闘争として闘われたが、警察機動隊を突破できなかったこと、この上に第二次プロントの路線闘争があったのである。

七・六事件の基礎にあっては路線闘争を総括しておかなければならない。六九年四・二八闘争が全学連、反戦青年委員会のベトナム反戦闘争、日帝の侵略反革命の政策に反対する闘争と日帝の高度成長の下で大学が資本に従属、奉仕してきたことを告発する全共闘運動の結合で、佐藤自民党政権打倒の實力闘争として闘われたが、警察機動隊を突破できなかったこと、この上に第二次プロントの路線闘争があったのである。

七・六事件の基礎にあっては路線闘争を総括しておかなければならない。六九年四・二八闘争が全学連、反戦青年委員会のベトナム反戦闘争、日帝の侵略反革命の政策に反対する闘争と日帝の高度成長の下で大学が資本に従属、奉仕してきたことを告発する全共闘運動の結合で、佐藤自民党政権打倒の實力闘争として闘われたが、警察機動隊を突破できなかったこと、この上に第二次プロントの路線闘争があったのである。

七・六事件の基礎にあっては路線闘争を総括しておかなければならない。六九年四・二八闘争が全学連、反戦青年委員会のベトナム反戦闘争、日帝の侵略反革命の政策に反対する闘争と日帝の高度成長の下で大学が資本に従属、奉仕してきたことを告発する全共闘運動の結合で、佐藤自民党政権打倒の實力闘争として闘われたが、警察機動隊を突破できなかったこと、この上に第二次プロントの路線闘争があったのである。

六九年七・六事件とプロントの路線闘争を総括し、 統合の勝利をマルクス・レーニン主義の第三次プロント結成の戦闘宣言とせよ!

高原 浩之

七・六事件は第二次プロントにおける路線闘争が急進民主主義のテロリズムと経済主義を両極とする諸傾向への分裂として進行する発端となり、連合赤軍事件がその頂点となったのである。同時に、連合赤軍事件は路線闘争が破産した急進民主主義から分裂・転換してマルクス・レーニン主義が形成される段階に移行する発端となり、それは現在も進行している。だが、現在は、また同時に、いくつかのマルクス・レーニン主義派が統合する新しい段階が始まりつつある。

七・六事件を総括し、自己批判しておくことが必要である。

七・六事件の基礎にあっては路線闘争を総括しておかなければならない。六九年四・二八闘争が全学連、反戦青年委員会のベトナム反戦闘争、日帝の侵略反革命の政策に反対する闘争と日帝の高度成長の下で大学が資本に従属、奉仕してきたことを告発する全共闘運動の結合で、佐藤自民党政権打倒の實力闘争として闘われたが、警察機動隊を突破できなかったこと、この上に第二次プロントの路線闘争があったのである。

七・六事件を総括し、自己批判しておくことが必要である。

七・六事件の基礎にあっては路線闘争を総括しておかなければならない。六九年四・二八闘争が全学連、反戦青年委員会のベトナム反戦闘争、日帝の侵略反革命の政策に反対する闘争と日帝の高度成長の下で大学が資本に従属、奉仕してきたことを告発する全共闘運動の結合で、佐藤自民党政権打倒の實力闘争として闘われたが、警察機動隊を突破できなかったこと、この上に第二次プロントの路線闘争があったのである。

七・六事件を総括し、自己批判しておくことが必要である。

七・六事件の基礎にあっては路線闘争を総括しておかなければならない。六九年四・二八闘争が全学連、反戦青年委員会のベトナム反戦闘争、日帝の侵略反革命の政策に反対する闘争と日帝の高度成長の下で大学が資本に従属、奉仕してきたことを告発する全共闘運動の結合で、佐藤自民党政権打倒の實力闘争として闘われたが、警察機動隊を突破できなかったこと、この上に第二次プロントの路線闘争があったのである。

七・六事件を総括し、自己批判しておくことが必要である。

この事業に一定の貢献をしているが、さらに大きな貢献をするためには、改めて七・六事件を総括し、自己批判しておくことが必要である。

七・六事件の基礎にあっては路線闘争を総括しておかなければならない。六九年四・二八闘争が全学連、反戦青年委員会のベトナム反戦闘争、日帝の侵略反革命の政策に反対する闘争と日帝の高度成長の下で大学が資本に従属、奉仕してきたことを告発する全共闘運動の結合で、佐藤自民党政権打倒の實力闘争として闘われたが、警察機動隊を突破できなかったこと、この上に第二次プロントの路線闘争があったのである。

七・六事件を総括し、自己批判しておくことが必要である。

七・六事件の基礎にあっては路線闘争を総括しておかなければならない。六九年四・二八闘争が全学連、反戦青年委員会のベトナム反戦闘争、日帝の侵略反革命の政策に反対する闘争と日帝の高度成長の下で大学が資本に従属、奉仕してきたことを告発する全共闘運動の結合で、佐藤自民党政権打倒の實力闘争として闘われたが、警察機動隊を突破できなかったこと、この上に第二次プロントの路線闘争があったのである。

七・六事件を総括し、自己批判しておくことが必要である。

七・六事件の基礎にあっては路線闘争を総括しておかなければならない。六九年四・二八闘争が全学連、反戦青年委員会のベトナム反戦闘争、日帝の侵略反革命の政策に反対する闘争と日帝の高度成長の下で大学が資本に従属、奉仕してきたことを告発する全共闘運動の結合で、佐藤自民党政権打倒の實力闘争として闘われたが、警察機動隊を突破できなかったこと、この上に第二次プロントの路線闘争があったのである。

マルクス・レーニン主義の第三次プロント建設へ

今日、かつての路線問題はより大規模に提起されている。日本帝国主義の侵略、反革命、反動、差別、抑圧、搾取、収奪の政策と自民党政権に反対する経済闘争、民主主義闘争が爆発し、闘争はかつてのようには学生運動が中心ではなく、労働運動、農民運動などが中心になっており、人民闘争となっている。これに対して、日本帝国主義は天皇制を前面化し、軍隊、警察、官僚機構を肥大化してブルジョア階級独裁の国家権力を反動化し、労働貴族を基礎とする修正主義、社会帝国主義

今日、我々はプロント系において急進民主主義と明確に分界線を引いたマルクス・レーニン主義派の統合を目指している。統合は一〇年間の路線闘争を通じて路線問題をマルクス・レーニン主義によって解決した基礎の上でなされるのである。だから、統合の後、すぐに党内闘争が全面的、体系的な方針をめぐる路線闘争として起きることは考えられないが、どのマルクス・レーニン主義派も全て部分的には急進民主主義を残しており、個々の方針をめぐる論争として党内闘争が起ることは避けられない。党内闘争は党の生命力である。組織の統一を保持して党内闘争を正しく遂行し、党を建設しなければならぬ。そのためには急進民主主義を個人主義にまで突っこんで清算し、マルクス・レーニン主義を組織思想にまで掘り下げて獲得しなければならぬ。

「権力獲得のためにたたかうにあたってプロレタリアートには組織のほかにどんな武器もない。ブルジョア世界の無政府の競争の支配によって分裂させられ、資本のための強制労働によって押しひしがれ、まったくの貧困と野蠻化と退化の「どん底」に絶えず投げおとされているプロレタリアートはマルクス主義の諸原則による彼らの思想的統合が幾百万の勤労者を一つの労働者階級に融合させる組織の物質的統一でうちかためられることによってのみ、不敗の勢力となることができるし、またかならずなるであろう」(同)。生産手段を独占し、国家権力を掌

急進民主主義の組織思想から 中央集権主義の組織思想へ

だが、七・六事件の自己批判は路線問題一般だけでは不十分である。七・六事件は赤軍派が起したクーデターであった。これをもって路線闘争は党内闘争から分派闘争に発展したのである。しかも、このことを赤軍派は分派の意図は全く持たずに、自然発生的に行なったのである。第二次プロントの分裂は必然であったが、

「党組織は彼らには奇怪な「工場」のように思われ、部分が全体に服従し、少数が多数に服従することは彼らには「農奴的隷属」のように思われる」(同)。このような個人主義があり、多数派として他人を組織の規律に服従させることはできても、少数派として自分が組織の規律に服従し、粘り強い党内闘争を通じて多数を勝ちとることはできなかったのである。これは「綱領における日和見主義は当然に戦術における日和見主義および組織における日和見主義と結びついている」(同)というように、赤軍派の武装蜂起、革命戦争の主張が小ブル・インテリゲンツィアである学生の帝国主義に対する憤激を反映していたからである。

今日、我々はプロント系において急進民主主義と明確に分界線を引いたマルクス・レーニン主義派の統合を目指している。統合は一〇年間の路線闘争を通じて路線問題をマルクス・レーニン主義によって解決した基礎の上でなされるのである。だから、統合の後、すぐに党内闘争が全面的、体系的な方針をめぐる路線闘争として起きることは考えられないが、どのマルクス・レーニン主義派も全て部分的には急進民主主義を残しており、個々の方針をめぐる論争として党内闘争が起ることは避けられない。党内闘争は党の生命力である。組織の統一を保持して党内闘争を正しく遂行し、党を建設しなければならぬ。そのためには急進民主主義を個人主義にまで突っこんで清算し、マルクス・レーニン主義を組織思想にまで掘り下げて獲得しなければならぬ。

「権力獲得のためにたたかうにあたってプロレタリアートには組織のほかにどんな武器もない。ブルジョア世界の無政府の競争の支配によって分裂させられ、資本のための強制労働によって押しひしがれ、まったくの貧困と野蠻化と退化の「どん底」に絶えず投げおとされているプロレタリアートはマルクス主義の諸原則による彼らの思想的統合が幾百万の勤労者を一つの労働者階級に融合させる組織の物質的統一でうちかためられることによってのみ、不敗の勢力となることができるし、またかならずなるであろう」(同)。生産手段を独占し、国家権力を掌

見出しは編集局の責任で付けました

七九年七月

全人民の怒りと団結で

再審実現を!

八・九最高裁「上告棄却」二年を経た、再審闘争はいま重大な局面に入っている。一九七七年八月九日最高裁「上告棄却」後、部落解放同盟と狭山弁護団は、裁判のやり直しを求め再審請求書、意見書を提出し、石川一雄さんの無実を示している。「事実調査」を行うように再三にわたって東京高裁に対し要求してきた。だが、昨年二月十九日、弁護団と高裁の折衝において、東京高裁は「現在のところ証拠調べる考えはなく、白紙の状態である。意見が出された上で考えるが証拠調べる考えはない」ということになれば、次に「出される検察官、弁護団からの意見が最終意見となる」と述べ、事実調査をする意志がないことを明らかにした。

これを受けて今年の二月十八日、検察官意見書が提出された。この意見書は、「緒言」「筆跡・スコップ・足跡・手拭」「筆圧痕に関する新規性、明白性の検討」「結語」という構成になっているが、その内容は、高裁寺尾判決、最高裁「決定」を全面的に美化、防衛し、東京高裁に対して「司法権力の権威を守るために二度確定した判決を変えるべきではない」と再審棄却「獄死」策動への布石に他ならない。この意をうけた東京高裁四合は、六月初旬の弁護団との折衝の中で、「新事実があれば六月中旬に出してもらって検察官の意見を聞きたい」と、早期棄却の野望を隠そうともしていない。

再審棄却策動を許すな

五・三以降の検察・高裁の対応は、狭山差別裁判闘争を重要な環とする労働運動と部落解放運動の結合した闘いが、最も鋭く資本主義的秩序、ブルジョア階級独裁を揺がしていることへの危機感の表明である。その巻き返しは、ブルジョア社会のあらゆる領域に及ぼざるを得ない。それは、一方で資本主義的秩序の維持・再編、とりわけブルジョア法制度の反動的再編(七・二四沖繩闘争の上告棄却)最高裁による「弁護人抜き裁判」の追認を見よ)として、他方で労働者階級人民の中への差別と分断の持ち込み、とりわけ九次に及ぶ「部落地名鑑査」に端的な、部落差別をテコとした階級的団結の破壊を目論むものである。

部落解放同盟に対する支配階級の攻撃は、部落解放同盟がおし進めしてきた、狭山闘争の全人民的組織化・部落完全解放の闘いとして狭山闘争が重要な闘いであり、また労働者の自己解放の闘いとして不可分のものであることそのような闘いとしての狭山闘争の全人民的波及に対する、反動攻撃に他ならない。石川一雄さんを部落民であるという一点で、犯罪者に仕立てあげた警察、そして「自白書」をでっちあげ、それにもとづいて様々な偽証工作をなし、ブルジョア国家権力の威信を保とうと必死になり、部落

しかし、東京高裁は早期再審棄却を策動し、二月見解を本質的には一歩もかえようとしない。これまでの裁判過程で石川さんの無実を立証する証拠を全然と無視したことは高裁の寺尾判決が示している。それ故、われわれは、当面の

「左翼」融和主義を自己批判し、

わが同盟は「革命の旗」として旧遊撃派、旧ML派が、日本における単一の革命党建設をめざして闘った共産主義者同盟である。われわれは、部落完全解放をめざす部落解放同盟の闘いに学び、狭山闘争勝利の先頭にたたねばならない。旧遊撃派のM部落民階級差別行為の自己批判を、「革命の旗」の部落解放運動への取り組みの根本に位置づけ、この実践のため全力を傾注せねばならない。

部落解放運動を労働者階級の課題へ

約の精神を歪曲し解消主義(政治的利用主義を結果させた)へ陥っている傾向そのものと併せて自己批判せねばならなかった。この誤りは、部落解放運動への部落大衆の自主的決起をおしとめるだけなく、労働者階級がプロレタリア運動の中でブルジョアの差別意識を克服する水路を形成しえないだけでなく、自己の階級役割を真に発揮するように働きかけるのでなく、ブルジョア支配階級の融和主義攻撃(部落差別攻撃と分断支配)を容易にするものに他ならない。

またこの間、ブルジョア支配階級の国家権力の部落解放運動に対する攻撃は強められてきている。元号法制化をもつてする天皇制攻撃の強化、経済的危機を労働者階級人民に転嫁し、部落大衆に対する収奪・生活破壊を強めていること、更には「地名鑑査」攻撃による差別の拡大、「同和会」形成と組織破壊攻撃である。そしてこれらの頂点にこそ、八・九上告棄却が押しつけられ、狭山闘争の破壊・部落解放運動の弾圧をねらったものに他ならなかった。また今年五・三闘争にあつて、ブルジョア国家権力は、集中的に全労働者階級と先進的労働者活動家を不当逮捕し、共同闘争の拡大を抑圧・阻止せんとしてきた。ブルジョア支配階級は、この部落解放運動と労働運動が結合し、共同闘争として発展することで、自らのブルジョアの支配の秘密が労働者階級人民の方に、より赤裸々となること、恐れをなしているのである。それ故、日共現代修正主義者もまた、こうした支配階級の政治的危機の深まりの中で、その意図をくみつくすかのように、部落

審査をめぐる攻防のカナメは、この新証拠を、事実調査を行わせるために活用し、大衆闘争の巨大なうねりを全国津々浦々までつくりだし、組織することである。部落解放同盟は五月二十五日から、石川さんの無実と三闘争の勝利に向けた全闘争進めはじめ八・九闘争へ、部落の労働者、農民、漁民を中心とした組織強化のもとに、共同闘争の強化をかちとり、大衆の実力闘争を呼びかけている。

成し、ブルジョア社会への「融合」を強要している。こうしたなかで、われわれの「左翼」融和主義・解消主義は一見戦闘性を装いつつも、真に被差別部落大衆の力、労働者階級の力に依拠し闘うものでなかったこと、このことを明確に突き出しておかなばならない。この間、狭山闘争を部落完全解放の政治的カナメとして押し出し、闘いをくりひろげてきた部落解放同盟の最大の教訓は自力・自闘の精神であった。また、そうすることで多くの部落大衆のみならず、広範な労働者を闘いに決起させ、大衆的戦闘的陣型の創出を可能とってきたのであった。何よりも、こうした闘いの生きた教訓を、われわれは自己批判のなかで一層徹底化させねばならない。とくに今日、労働運動の右傾化が、労働者階級人民の闘いを促進され、他方で、こ

朝鮮半島をめぐる最近の情勢

サニット後急展開する朝鮮出兵態勢

今日、朝鮮半島をめぐる軍事情勢はきわめて緊迫化している。とくにカーター訪韓につぐ、山下防衛庁長官の訪韓、さらには訪米は、米日韓の反革命臨戦態勢・三角軍事体制の画期をなすものであり、断乎弾劾しなくてはならない。

山下訪韓を弾劾する

この下に、この間米帝は「北の軍事力増強」をキャンペーンし、在韓米軍の撤退中止(二月九日)、F4Eファントム戦闘爆撃機などの韓国への大量貸与を開始した。さらにサニット後、カーターが訪韓、米韓共同声明を発表した。この共同声明は、第一に、南北統一問題について、公式文書としてはじめて、三者合談方式をうちだし、北緯三八度の軍事境界線を国境線として固定化し、南北分断の下に朴政権へのテコ入れをはかることを鮮明にした。第二に、「あり得べき侵略を抑止、防衛するための高度の軍事力と戦闘体制維持に関する重要な寄与を果たした」とし、米帝が韓国の「自主防衛体制」確立のため、さまざまなテコ入れをすることを明らかにした。

今年三月三日、ホルブルック米國務次官補(東アジア・太平洋担当)は下院国際関係委アジア・太平洋小委において「今後数ヶ月間がアメリカの新しい北東アジア政策を樹立する上で非常に重要な時期になるだろう」と述べ、「アジア地域において共産勢力の脅威からアメリカの同盟国を隔離・保護し、東西陣営の現状

民主カンボジア人民の抗ソ抗越救国闘争を断乎支持する好評発売中! 残部僅少 頒価・三〇〇円

の間の部落解放運動と労働運動の結合の前進、その意義を空洞化、または解体させる傾向が認められる情勢にあつて、この狭山闘争の教訓を一層徹底化し、闘争の拡大に向け組織していくことが重要である。この闘いを通じて、否、この闘いこそが部落差別の根源であるブルジョア階級独裁を打倒し、資本主義を一掃していく道を、一層はき清めるであろう。まさに今日の狭山闘争は、部落解放同盟を中軸として労働者階級へと拡大し、ブルジョア国家権力打倒の真の階級的基礎を作り出し、労働者階級が社会主義革命へ

朝鮮を巡る米ソの覇権争奪の激化

朝鮮を巡る米ソの覇権争奪の激化

昨年「有事立法」攻撃以来、激化するこうした一連の事態に対し、われわれは断乎反対し、阻止していかなばならない。第一に、こうした軍事体制の再編が、イラン、ニカラグアと続く反帝民族解放闘争の新たな高揚に対する反革命であること、暴露していかなばならない。実際、米帝は、イラン革命に重大な衝撃をうけ、新たな世界戦略の再編、力による民族解放闘争の圧殺をより強化している。その具体策ともいえるのが、ホルブルックの米帝と結びつくことによつて、アジア地域での自らの帝国主義的利益を防衛し、人民の闘いを圧殺しようとしているのである。

第二に、これらの再編は、激化する米ソの覇権争奪の中で、東アジアでの米帝陣営の確立にむけたものである。とくにソ連の空母ミンスクのウラジオストクへの派遣や、極東地域への軍事力の集結の中で、日本海の制海権をめぐる問題

山下訪米・日韓閣僚会議粉砕へ

閣僚会議粉砕へ

以上の観点の下に、われわれは、反帝反社反反帝権の国際路線と結びつけ、朝鮮人民の民族解放闘争と連帯する闘いとして組織していかなばならない。

とりわけ、人民民主主義路線をかかげ打ち出せず、新たな祖国防衛派に転落し、一方反ソ派の諸君もまた、第二の観点を欠落させ、単純な日帝自立論や、米ソの開戦論、ソ連の美化をさまざまに行い、さらに団結すべき革命勢力を鮮明にできず、そればかりか敵対している中で、とくにこのことは重要である。「民主主義と民族統一のための国民連合」をはじめとした韓国の民主化勢力は、カーター訪韓についてもその本質を見抜き、ねばり強い闘いをすすめている。また朝鮮民主主義人民共和国は、米帝をきびしく弾劾、その好戦性を暴露するとともに、民主カンボジアへの連帯をつよめ、国内での社会主義建設と、反帝反支配主義の国際路線を高くかかげている。全国の読者諸君、闘う朝鮮人民と団結し、反帝反社反反帝権の下に、六・二八サニット粉砕闘争、さらに七・二五山下訪韓弾劾の闘いをふまえ、八月山下訪米阻止、九月日韓閣僚会議粉砕へ、さらに闘いをつよめていこう。

労働運動の新たな転換を!

九・八帝国主義的労働戦統一反対集会に結集しよう!

戦争と革命の時代たる今日の時代的特徴は労働運動内部における帝国主義と社会主義の分裂を一層鮮明に作りだすにはおかない。

それは労働運動が、すでに命脈のつきようとして資本主義を生きたがらえさせ、社会主義革命に対する防波堤としての役割をはたすのか、さもなくば「資本主義の墓掘り人」としての労働者階級の歴史的使命をまっとうすることに貢献するのかがめぐる分水嶺がそこにあるからである。

社会主義と労働運動を結合せよ!

すでに労働者階級内部の先進的部分は自分たちの未来がこの資本主義体制の内にはないこと、現状の根本的打開が社会主義革命と結びつかなければならぬことを感じ取り始めている。今日では「社会主義をめざす労働運動」が先進的労働者の共通のスローガンとなつてきた。

それは、この間の資本の暴力的な「減量経営」攻撃に労働官僚どもが先を争って屈服し、労働運動共同体イデオロギーを陰に陽に吹聴する中で「体制内改良の道」がどんなに欺瞞に満ちたものであるかを否応なく暴き出さずにはおかなかった。

それは今日の労働運動の内部で進行する分化と再編、活性化と流動化の核心点が何であるべきかを、われわれに教えている。そしてまたこのことはわが党にとつてしっかりと労働者階級と結びつき、その内部に確固とした影響力を獲得し、労働者多数の獲得に向かわしめるための格好の、そして広々とした舞台と条件が眼前に広がっているというのを意味している。今こそかかる局面に大胆に、攻勢的に介入し、あらゆる場面に党の綱領を持ち込み、修正主義、現代修正主義の反動性を暴き出し、一方で先進的労働者を彼らが未だ色濃く持ち続けているサソリを切り、プロレタリア社会主義の道へと導き入れていかなければならぬ。

このことは現実の反抗の様々ならわれを首尾一貫して日帝打倒・米帝追放・プロレタリア社会主義革命へと結びつけるマルクス・レーニン主義の綱領と政治路線

彼らの労働運動の指導とは結局のところ分配をめぐる資本と争いつつ、生産手段がブルジョアジーの手に集中し、独占的に所有されていること、一切の抑圧と露落と貧困の根源がそこにあることをおおいにおいしく、それには一指たりとも触れないことをもってブルジョアジーに忠告を奮っているのである。

だが事態はかかる修正主義、現代修正主義者の反動性を一層明らかにせずにはおかない。それは帝国主義的体制の危機がますます労働者大衆に犠牲を集中し、

しかも日帝が加速度的に帝国主義強盗戦争への準備をおし進める中で反動を強めることにより、労働者大衆の反抗は一層の高まりと揺りをもちはじめています。しかも社会主義の無力性、反動性は労働者

大衆の共通の認識とすべからず、彼らが労働者大衆の利益を何一つ代表していないことが事態の進行の中でますます明らかになりつつあることを示している。

大衆の共通の認識とすべからず、彼らが労働者大衆の利益を何一つ代表していないことが事態の進行の中でますます明らかになりつつあることを示している。

「労働戦統一」策動を打ち砕け!

これは現実の進行する労働戦統一は一体いかなる性格を持つものであろうか。まずこの労働戦統一がすでに現実的に進行している事実をおさなければならぬ。それは先の労働サミットにおける総評と同盟のパートナーぶりの原発問題に対する総評の「安全性を含めて前向きに研究にとり組む」という「平和利用」論への屈服すなわち同盟への屈服と迎合をもつ

し、かつての産業報国会を今一度再興せんとするものに他ならない。それは日帝の植民地支配と市場再分割に労働者階級を動員し、戦争協力の策謀を一致体制をつくりださんとするものであり、この労働戦統一こそは日本労働運動の右翼的再編を通じた日帝の戦争体制への加担、動員の一大跳躍点としてあると言つても過言ではない。

七月二日、全国七県から三五〇人が結集し、日本教育会館において「農業危機突破全国集会」が開催された。この集会は、宮城県南郷町農民組合の伊藤仁氏をはじめ六人の呼びかけのもと、百人を超える諸個人、団体の賛同をえて実現された。

集会は、千葉三塚の佐山氏の開会宣言で始まり、議長団に千葉の山倉氏、元

九・八労働者集會に総結集せよ!

だが、このような労働官僚どもの労働運動支配と一層の右傾化に對し職場では着実に不信と反発が広がっている。今こそ先進的労働者は広範な労働者大衆と結びつき、帝国主義的労働戦統一策動に對し痛打を浴びせなければならぬ。この帝国主義的労働戦統一反対の闘いを日

アメリカからの農産物輸入の増大によってますます農民に対する圧迫が強まっている。第四に今や農協中央会は、農民の利益に忠実でないばかりか、農民の闘いに対して陰謀、公然と介入して来る。第五にこのようなか中で、旧来の陳情運動ではなく、農民自身の闘いの構築こそが今強く要請されているということが鮮明に提起された。

続いて各地からの闘いの報告に入り、新潟の吉岡氏、秋田の井上氏、佐賀の中山氏、北海道の馬場氏、千葉三塚の石井氏、沖縄の友寄氏の各地の現状と闘いの報告が行われた。この報告と基調提案を受けて、会場全体の自由討議に入り、各地で主体的にしかも困難な状況の中でねばり強く闘っている農民からの発言が相次ぎ、会場の雰囲気は盛り上がった。

最後に、宮城・南郷町農民組合婦人部の近藤さんからの力強い決意表明と、集会宣言を採択して熱気のうちに終了した。集会後、参加者は農林水産省までのデモを強力にシニプレヒコールでもって最後まで貫徹した。

いかに農業危機を突破すべきか!

七月二日、全国七県から三五〇人が結集し、日本教育会館において「農業危機突破全国集会」が開催された。この集会は、宮城県南郷町農民組合の伊藤仁氏をはじめ六人の呼びかけのもと、百人を超える諸個人、団体の賛同をえて実現された。

集会は、千葉三塚の佐山氏の開会宣言で始まり、議長団に千葉の山倉氏、元

七月二日、東京・日本教育会館で「三塚塚被告を激励し裁判闘争勝利の大集会」が反対同盟、被告、家族、労働者、学生一千余人の結集でからとられた。

七月二日、東京・日本教育会館で「農業危機突破全国集会」が全国七県三五〇人の結集でからとられた。

七月五日、一九七一年七月仮処分裁判(農民放逐塔死守闘争)被告八二人全員に有罪判決。九人に実刑。

東京都知事鈴木、羽田空港拡張の意向を発表。

七月六日、運輸省は、成田空港乗り入れ一三社に対して「燃料積み込み量を五分目標に削減してほしい」と文書で異例の要請。七月六日現在のストック量は五〇六日分。深まる燃料不足に強行開港したものの……。

七月九日、空港公団、空港騒音区域見直し、新たに九二一ヘクタールを追加する。空港周辺のアンケート、二期工事反対の声が圧倒的。

動労中央、臨時中央委員会を開き、動労千葉執行部員全員の除名を決定。

七月十三日、木の根かんがい用水建設に対して成田署は「工事は土地収用法違反」と工事中止を勧告する。

七月十六日、森山運輸大臣は記者会見で三塚塚空港の二期工事について「関係農民」との話し合いを望むとの発言を行なう。

七月十八日、公団は千葉市に対して、パイプライン花見川ルートの道路占

東峰団結小屋
でんわ 0476(32) 0505

東峰だより

七月五日より、一九日わたる森山発言をめぐる各報道機関紙・テレビ等の報道によれば、同盟はあつちと和らぎ、過激派と二派に分裂して行動があるよう印象づける記事が報道されたが、反対同盟は一体の組織でそのようなことはない。読売新聞に記載された記事等については事実無根である。

七月一八日森山運輸大臣発言の文章が送付されたが、差出人不明書であり、内容は単なる呼びかけ文にすぎぬ。そのままのものをここに紹介する。……略……

また森山運輸大臣、加藤副官房長官外関係者と、さる四月より十数回に及ぶ交渉があるよう書かれた紙面があったが、同盟は調査の結果、そのような事実は全くないことが明らかになった。反対同盟は基本通り、二期工事阻止、空港騒音港へ向けて闘い抜くことが拡大幹部会で確認され、今後このような呼びかけには応じぬことを決定した。

なお、九月一六日、三塚塚現地において全国総決起集会を開催することになり、全国に呼びかけを始める。

七月二十三日、木の根かんがい用水の風車を支える鉄塔が組み立てられる。後は配管を残すのみ。公団は、土地収用法第二八条第三項の形状違反なので工事を中止するよう警告を行なうが、反対同盟、支援の抗議と糾弾で立札を立てるだけで帰っていった。

七月二十四日、風車の取り付けが行われる。

八月五日、七月七日、第七回中農村活動家経験交流集会が三日間にわたっておこなわれた。今回のテーマは「三塚塚農民闘争を全国へ」。

八月六日、「闘う農業」の第一弾、木の根かんがい用水建設工事完成する。午後三時から反対同盟、支援の多くの結集で完成式を行なう。風車は北総の風によって勢いよくまわり、水は貯水池をみす。六月一七日以来、連日炎天下で行われた建設作業が、ついに実を結び今日の完成式を迎えることができた。

